

活動報告

◆ 診療部 診療部長 大島茂樹

循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・外科・泌尿器科・脳神経外科・整形外科・心臓血管外科・内科外来の他に乳腺外来・糖尿病外来・肝臓外来・腎不全外来・禁煙外来等の特殊外来を設け、地域連携を重視した医療を提供した。

外来延べ患者数は、43,045人（前年度40,796人）で、2,249人増加した。救急患者数は、5,235人（前年度4,937人）と298件増加した。

入院患者数は、延43,081人（前年度、延43,730人）で、▲649人の減少であった。

4月から麻酔科尾方医師を常勤に迎え、月曜から金曜まで全平日勤帯での手術が可能になった。手術の全件数では、335件（前年度359件）と24件の減少であったが、外科168件（前年度154件）、整形外科130件（前年度127件）、脳神経外科12件（前年度13件）と多くの科で前年度と同レベルの件数を維持できた。また消化器科のESDも12例を全身麻酔科下で施行しており、患者さんの苦痛や合併症がなく短時間での処置が可能になっている。2012年度は脳神経外科の常勤医が藤岡院長1名となったが、済生会熊本病院（以下熊本病院）脳神経外科から3カ月交代で吉永医師・濱崎医師・水野医長・小林医長に応援に来ていただき、従来通りの脳梗塞・脳出血の急性期治療から回復期リハビリまでの一貫した治療体制が維持できた。心臓血管外科は常勤医が不在となったが、週1回外来診療を継続し、診断から治療方針決定・手術の準備・術後のfollow up等を地元で受けることが可能である。整形外科は、西口部長と瀬井名誉院長のサポートにより例年通りの医療体制を維持できた。腎泌尿器科は非常勤体制であるが、熊本病院の町田二郎副院長・白井医長・榊田医師・福井医長・関医師の応援により泌尿器科外来診療・腎不全外来診療に加え、前立腺生検、尿管ステント留置、TUR等の手術が提供できた。

消化器科は前年度同様藤本副院長・築村医長の2人体制であった。内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）をはじめとする内視鏡治療も前年同様充実したものであり、前述したが全身麻酔下での高難易度ESDも行われている。

外科は大島・田辺部長・甲斐医長の3人体制であった。治療の低侵襲化を目指し外科でも腹腔鏡下の結腸切除・胃切除・胆嚢摘出・虫垂切除等を行っている。胃切除術の鏡視下率は50%を超えている。

内科領域では、熊本病院・熊本大学附属病院消化器科からの医師派遣により、呼吸器・糖尿病・腎不全・肝臓の外来診療を支援していただいた。呼吸器内科は常勤の宮川医長によ

り腫瘍・感染症・呼吸機能障害・禁煙外来等、多岐にわたる呼吸器疾患に対する専門的な診療が提供できた。また、庄野副院長により循環器領域に限らず内科一般・生活習慣病に対して精力的な診療がなされているが、磯部医師も呼吸・循環器・感染症・代謝疾患・悪性腫瘍・緩和・在宅支援等活躍した。

2012年度は前期研修医（2年次）の地域医療研修を受け入れ、外来診療・入院診療・救急診療・湯島診療所訪問・カンファレンス等地域医療の実際を経験してもらった。後期研修医の保田医師・宇土医師は多くの症例を経験してもらおうと同時に大きな戦力でもあった。

また、診療部一同、癌化学療法・緩和医療・褥創治療・NST等の多職種で構成されるチーム医療においても、地域のニーズに応えられるように努力した。充実した1年であった。

